環太平洋の縄文人　　2024 年１月 20 日　　藤代歴史愛好会　石山　博

一般的には１０万年前から２０万年前に、アフリカに出現した新人類は世界に広まり，アジアのモンゴロイド 人はシベリアに３万年前，アラスカには１．５万年前に、ベーリングを経由して，南アメリカには１．２万年前に到達した。結果アメリカ大陸の原住民をなし，中米のアステカやマヤ文明，南米のインカ帝国を生んだと言われている。

一方２００１年８月１日付読売新聞によると，「アメリカ大陸一番乗りは縄文人」の新説を報じている。ミシガン大学教授Ｃ．ローリング．プレイスによると，米国各地の９０００年前の頭蓋骨の調査結果によると，モンゴロイド人の共通点は少なく，日本の縄文人やアイヌ人，ポリネシア人の特徴を持っているとのこと。

また、（東京大学教授　分子人類進化学　大田博樹氏によると）DNA 解析技術の進歩により、２０１８年に、８千年前のホアビニアンの DNA 解読に成功したことがきっかけとなり、縄文人の祖先は、アフリカから東アジアへたどり着いた最初の集団だった。と証明されました。

解説：北米一番乗りは縄文人？／米学者が骨の特徴を分析
ユーラシア大陸から北米大陸に最初に移り住んだ人類は、日本の縄文人に極めて近い人種だったという研究結果を米ミシガン大•人類学博物館のロリング•ブレイス教授らがまとめ、31 日付の米科学アカデミー紀要に発表した。

同教授らは、世界各地で出土した人間の顔や頭の骨について、鼻骨の高さや頭の幅といった 21 項目の計測データを分析。人種間の「近さ」を計算し、人類がかつて広い範囲で移動した様子を再構成した。
それによると、ユーラシア大陸から北米大陸への移動は 2 段階で進んだ。最初に移動したのは縄文人に極めて近い人種で、時期は今から約 1 万 5000 年前だった。その 1000 年後には南米最南端にまで達した。　　••四国新聞　2001/07/31 08:16　より

さて一番乗りはさておき，種々のルートで縄文人がアメリカ大陸に渡ったものと思われる縄文人の痕跡が環太平洋には多数存在する。文献，遺跡，民族学より環太平洋の縄文人を検証してみよう。

１．縄文文化
縄文文化は１万２千年前より栄え，代表格の三内丸山遺跡は５５００～４０００年前に栄えた。この文化の代表が縄文土器であり，日本本土に広く分布している。

①縄文人は越の翡翠や北海道の黒曜石，岩手の琥珀，秋田　のアスファルトを求めて，海上交通を利用して活躍していた。又食料の面よりも遠洋漁業に属するマグロ漁を営んでいた。つまり単なる集落民族ではなく，それ相当の船と航海術を所有していた民族であったと思われる。
②縄文土器の分布にしても本州は元より北海道や絶海の孤島の八丈島で発見されている。
③縄文晩期／３０００年前の寒冷化により，大集落を維持出来なくなり各地に分散したものと思われる。この一部の民が海洋に活路を求めても不思議ではないと思う。

④奈良県清水風遺跡（しみずかぜいせき)より弥生時代中期の数十本のオールを持った準構造船を画した土器が出土した。これを復元すると，全長２５ｍ，３７人乗りのゴンドラ型外航船である。

⑤常陸国風土記によると「石城の国から軽野の浜へ，１５丈の長さの大船が流れ着いた」とある。これ等は縄文時代ではないが古代倭人は大型船を所有していた事は間違いない。

２．北太平洋コース

ベーリング海峡コース：一般的な人類の移動で最後の氷河期の海面低下により陸続きになり，アジア大陸のモンゴロイド人が動物を追ってアメリカに渡った。

アリューシャン列島コース：千島経由を島つたいに北米に渡るルート。船による安全ルート。

２．１　中国正史「梁書」６２９年成立によるアメリカ大陸旅行扶桑国（アメリカ）の僧慧深（けいしん)が中国に来て，分身国，大漢国，扶桑国の話をつたえる。

①慧深は往復旅行をしていた。
②北太平洋コースと思われ，既にカシミールの僧が渡米していた。
③扶桑国はメキシコ（マヤ国）説もあるが，私見ではメキシコ（テオティワカン）であると考える。

２．２　西村真次の遺跡調査戦前の人類学者西村真次はカムチャツカ半島，セント•ローレンス島やアメリカインディアンの土器が縄文土器に似ていると指摘していた。
しかし残念なことに現代の日本の考古学者は海外の縄文文化に言及することには消極的である。

２．３　１８世紀のフランスの探検家ラペルーズの記録江戸時代にエゾ人がサハリン～アムール川間の６００海里を丸木船で交易していた。どうも北コースは交通路として一般化していたようだ。

２．４　アメリカ先住民イロコイ族の口承史アメリカ先住民のイロコイ族は１万年前アジアよりベーリング海峡経由でアメリカに渡ったとの口承史を記憶している。

解説：イロコイ族：北アメリカのアメリカ合衆国ニューヨーク州オンタリオ湖南岸とカナダにまたがった保留地を持つ、6 つのインディアン部族により構成される部族国家集団をいう。今日ではシックス•ネーションズ（英: Six Nations）の別名で呼ばれることもある。

３．南太平洋コース
ミクロネシアーメラネシアーポリネシア経由コース。各地の縄文遺跡や「魏書」が物語る。

３．１　中国正史「魏志倭人伝」による南米大陸と倭人卑弥呼を記した魏志倭人伝の最後の方に下記の興味ある記述がある。

①•••「有侏儒国在其南人長三四尺去女王四千余里又有裸国黒歯国復在其東南船行一年可至」
••つまり••侏儒国がその南にある。身長は三四尺で，女王国から四千里である。
又裸国や黒歯国が更に東南にある。船旅一年である。

②裸国や黒歯国は南米と考えるのが自然ではないだろうか。

③裸国や黒歯国に関して，ペルーの天野博物館の創立者 天野芳太郎氏のエクアドルの調査資料がある。

解説：天野 芳太郎（あまの よしたろう、1898 年（明治 31 年）7 月 2 日 - 1982 年（昭和 57 年）10 月 14 日）は大正、昭和の日本の実業家、アンデス文明研究家。

３．２　魏志倭人伝の台与と真珠

①卑弥呼の死後，女王の地位についた台与が中国の皇帝に「真珠５０００個を献上」とある。

②民族学の羽原又吉の説：江戸時代に紀州の漁民が国禁を犯して，真珠を採りにオーストラリヤまで出掛けていた。卑弥呼や縄文時代にも考えられるのでは。

解説：羽原又吉：大分県直入郡都野村（現•竹田市）出身。1909 年 7 月東京帝国大学理科大学動物学科卒業。1912 年北海道庁技師として小樽水産試験場勤務。1918 年農林省水産講習所（現東京海洋大学）嘱託となり、1931 年に教授、1942 年退官。

３．３　バヌアツ／メラネシアの縄文土器

　１９６０年中頃に，フランスの考古学者ジョゼ•ガランジェ博士がメラネシアのバヌアツ共和国／ニューヘブリデス諸島の畑の地表から約４０点の古い土器を採取したことに始まる。そして縄文土器とは知らずにエファテ島で採取した土器として論文を発表した。
①論文の写真を見た篠遠喜彦博士が縄文土器との類似を指摘。調査が始まる。
②１９９０年に国際日本文化研究センター主催のシンポジュウムに招待された篠遠博士は縄文土器の発見を日本に報告した。
③疑問を持ちつつ２０年後，ウィリアム•ディキンソン•アリゾナ大名誉教授の合作による土器の成分分析の結果は青森県出土土器と同じとされた。約５０００年前と判定された。

解説：篠遠喜彦博士：ハワイ大学卒，ハワイ•ビショプ博物館にて４０年間ポリネシア／太平洋考古学の研究に従事。土器なきポリネシアでは「釣針」により時代判定の基礎を確立した。

３．４　芹沢長介の「円筒下層式土器」の報告
同席した芹沢長介•東北大名誉教授も縄文前期の「円筒下層式土器」と酷似している発表を後日なした。

３．５　航海民族ラピタ人

①ラピタ人が出現したのが今を去る３６００年前と言われ，ニューギニヤの北東のビスマルク諸島の近辺に突如として現れた。
②彼らの人骨はモンゴロイドの特徴を備え，ラピタ土器を作成していた。
③東方は４０００ｋｍに数百年で，サモア／ポリネシアまで拡散してした。ラピタ土器を広めた。
④土器文化の無いポリネシアでは画期的と思われるが，ラピタ人の消滅と共に土器も衰退する。
⑤西方は同様４０００ｋｍのボルネオまで黒曜石の交易で拡散した。
⑥紀元前千年紀の後半には土器が消滅して，ラピタ人の存在は不明になる。

解説：ラピタ人（英: Lapita）は、人類史上初めて遠洋航海を実践し、太平洋の島々に住み着いたと思われる民族。1952 年、ニューカレドニアで発見された土器が「ラピタ土器」と命名されたことから、この文化がラピタ文化と呼ばれるようになった。
出典: フリー百科事典『ウィキペディア（Wikipedia）』

３．５　ポリネシアの不思議な植物
アメリカ起源と考えられるサツマイモを筆頭にして各種の有用植物がポリネシアに古くから存在していた。

３．６　民族学より海苔食民族

　増田義郎によると，海草を食べる民族は極めて限られている。主として太平洋岸であり，大西洋岸ではほとんどが産業資源として使うだけである。

　•太平洋岸では日本，韓国，南太平洋国々である。

　•南米ではペルーとボリビアとチリの現住民である。

　•ペルーではインカ帝国の時代より，４０００mの山の民が海藻を食している。

　年に一度リャマを連れて山岳地帯より海岸で海藻を採取していた。

解説：増田 義郎（ますだ よしお、本名•増田 昭三、1928 年 2 月 17 日 - 2016 年 11 月 5 日）は、日本の文化人類学者、歴史学者（ラテンアメリカ文化史）。東京大学名誉教授。
出典: フリー百科事典『ウィキペディア（Wikipedia）』

４．黒潮コース

　明治初期の咸臨丸の渡米コースであり，太古より太平洋岸の漁船，商船が多く関係していた。現代のヨットによる太平洋横断は古代に於ける横断の可能性を物語っている。黒潮コースは古田武彦氏が支持していて，カルフォニヤでは「ジャパン•カレント」と呼んでいて，各種の漂着物が有るとの事。

４．１　太平洋の遭難記録

　川合彦充によると江戸時代の日本船の太平洋での遠洋遭難記録が数百件あるとのこと。其の内南米を含むアメリカ大陸への漂着は８件を数える。鎖国時代であり戻って来た人々は氷山の一角ではないかと思われる。黒潮の成せる事項である。

４．２　南米エクアドルの縄文土器

　エクアドルのバルディビアの先史集落遺跡で多数の縄文土器に酷似した土器が１９５６年に発掘された。エクアドルのアマチュア考古学者エミリヤ•エストラーダがスミソニアン博物館に縄文土器に類似しているとして紹介したのが大発見の始まりである。最下層の土器はＣ１４による年代測定結果は６０００年前を示し，精錬された形式で忽然と発生したのが特徴である。

４．３　脚光を浴びた経緯

①バルディビアの先史集落遺跡で多数の縄文土器に酷似した土器が１９５６年に発掘された。土器なきエクアドルで突如として精錬された土器が出土したことが特徴である。
②エクアドルのアマチュア考古学者エミリヤ•エストラーダがスミソニアン博物館に縄文土器に類似の報告。
③エバンス博士夫妻は日本各地で縄文土器の調査を行い，「西九州の曽畑式土器」が酷似していることに達した。
④１９６５年にクリフォード•エバンス，ベティ•メガース，エミリヤ•エストラーダの三名連名でスミソニヤン博物館より正式な学術報告書を発行した。

（エストラーダ氏は４５歳で過に死亡していた）
⑤バルディビア遺跡の発掘調査は現在も続けられ，ＵＳＡ内ではエバンス説に賛否両論がある。
⑥日本国内的には古田武彦氏の賛同，江坂輝弥教授の反論以外は学会は無視している。
⑦１９９５年古田氏はメガース博士（エバンス妻）を招待してシンポジュウムを実施した。
⑧この来日で「ＨＴＬＶⅠ型の論証」，「寄生虫の論証」，「魏志倭人伝」等の収穫により，メガースは確信を持つ。

４．３　メガース博士の主張
①バルディビア土器は時期や文様より「西九州の曽畑式土器」が太平洋を渡って導入された。
②倭国からの伝播ルートは北太平洋の黒潮に乗ったものと推定している。台風による日本の材木のエクアドルへの漂着や西九州の漁船の太平洋への漂流実績による。
③メガーズは南北アメリカの土器発掘年代より バルディビア土器が各地に伝播したと結論付けている。
＊曽畑式土器：装飾が直線状の幾何学文様であり，唯一縄文地でない土器である。

５．中南米文化の縄文人の匂い
　中南米古代文化はメソアメリカとアンデスに大別できる。メソアメリカはマヤとアステカ，アンデスはインカとテワナコに代表される。どちらも黄金文化が脚光を浴びていて，高度の土器文化は黄金の陰に隠れている。

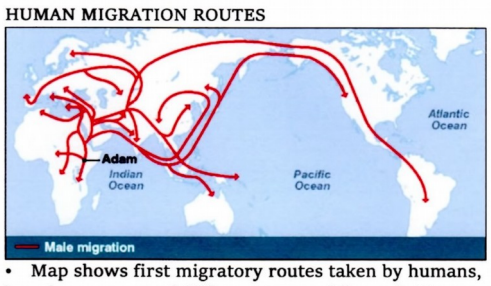
　過去を知るには征服者の記録を除くと，アステカやマヤには碑文と古文書がある。残念なことにはインカにはこの種は皆無である。マヤには多数の碑文と４通の絵文書（ex. トロ•コルテシアノ）と後日 伝説を記したポポル•ヴフ等が現存していて，過去を知る手がかりになっている。

５．１　ＤＮＡより見た縄文人の分布
①現代のアメリカ先住民のミトコンドリアＤＮＡのハプログループはＡ，Ｂ，Ｃ，Ｄ，Ｘの何れかである。
②ハプログループはＡ，Ｃ，Ｄ，Ｘは北アジア，Ｂは東南アジアや中国南部に多い。
③前者はベーリング海経由でアメリカに，後者は南太平洋経由でアメリカに移住者によると考えられる。
④日本人の最大のハプログループはＤであり，次いで「ハプログループＢ」は１３．３％該当する。立派に南太平洋の種族に属している。

解説：「ハプログループ」は、人間の細胞内の「ミトコンドリア」と呼ばれる器官のDNA の多型を用いて分類される遺伝的なグループを指します。 ミトコンドリアは祖母から母親、母親から自分と母系を伝って受け継がれるため、ミトコンドリアの DNA を調べることによって母系の祖先のルーツを辿ることができると考えられています。2022/09/06

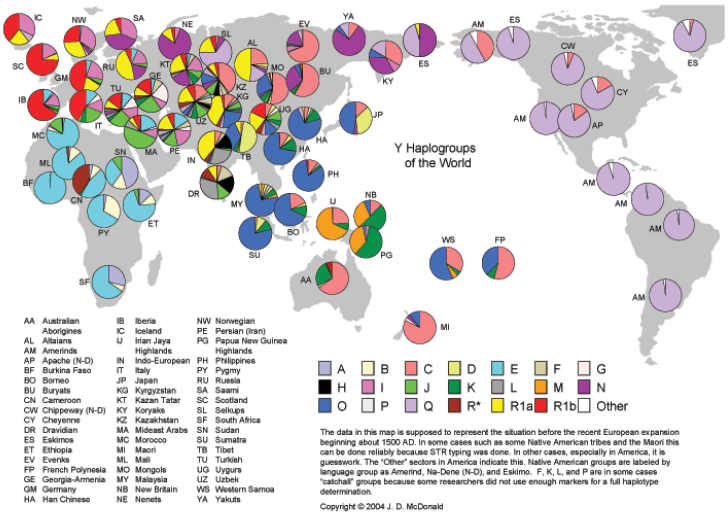
出典: フリー百科事典『ウィキペディア（Wikipedia）』
解説：ジェノグラフィック•プロジェクト（英: The Genographic Project）とは、ヒトのY染色体ハプログループ（父系）やミトコンドリアDNA（母系）の情報を基に、人類の共通祖先の発祥地から全世界への拡散ルートを特定しマップ化[1]していくことにより、人種•民族の起源と相互関係を視覚的に明らかにしていくことを目的とした進化人類学的研究。個人ユーザー向けのY染色体•ミトコンドリアDNAハプログループの検査サービスを活用した非営利目的の学術研究プロジェクト。現在のプロジェクト名はGeno 2.0次世代（ジェノ2.0ネクスト•ジェネレーション）。2020年6月1日終了したプロジェクト。

❖ ジェノグラフィック・プロジェクトが描く新人拡散ルート（2005）

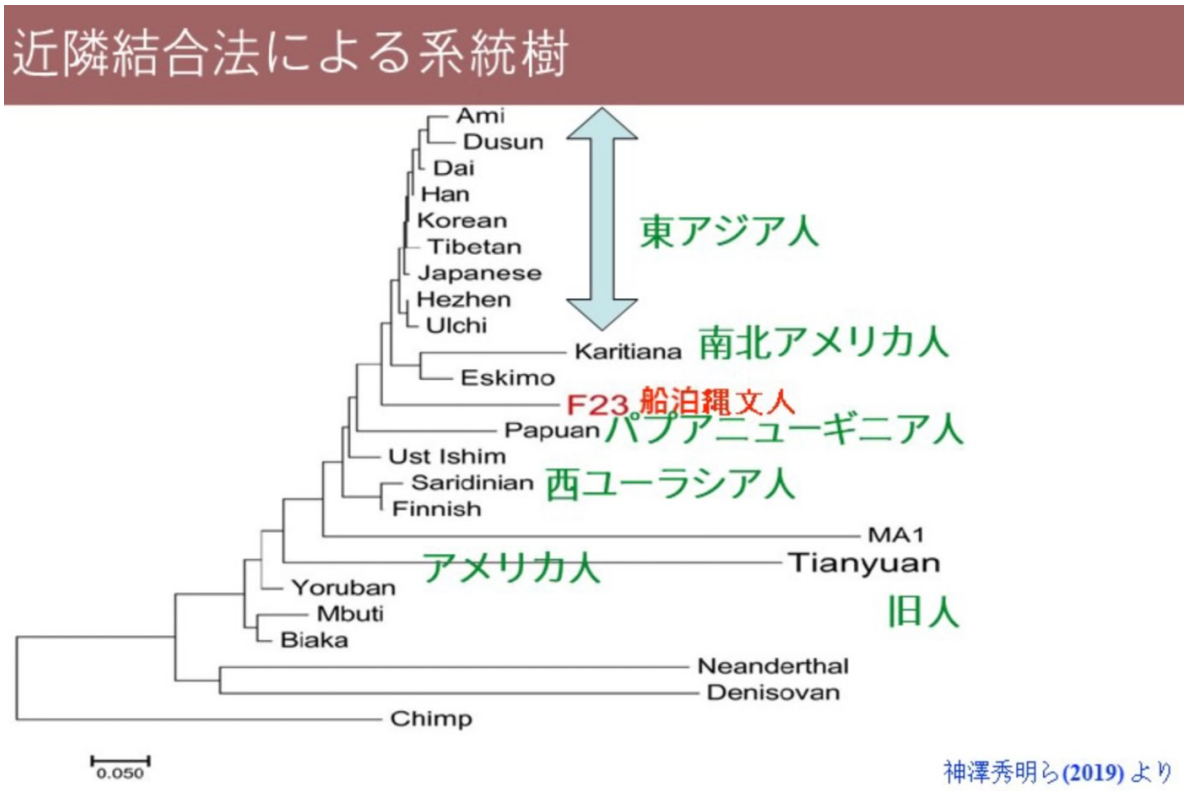


- Map shows first migratory routes taken by humans, based on surveys of different types of the male Y chromosome. "Adam" represents the common ancestor from which all Y chromosomes descended
- Research based on DNA testing of 10,000 people from indigenous populations around the world

Source: The Genographic Project



出典: フリー百科事典『ウィキペディア（Wikipedia）』



５．２　マヤの絵文書
　４通の絵文書内トロ•コルテシアノは神官のための占い，と宗教儀式を表している。

５．３　マヤ人の伝承歴史書「ポポル•ヴフ」による祖先
　祖先は石や砂伝いに西方の海を渡って来たとある。ポリネシア経由の南太平洋コースを連想する。

解説：『ポポル•ウフ』（Popol Wuj）とは、現在のグアテマラシティ北西にあるグアテマラ高地（英語版） に住むキチェ族の人々に伝わる神話および歴史を綴った文書である。

５・４　マヤの碑文による暦の紀元
　多数ある石碑のマヤ文字の暦によると，石碑に刻まれた日付の原点は現代の西暦紀元前３１１３年に相当する。約５１００年前に何か重大な事件が発生したことを物語っている。想像を逞しくすれば，縄文人が政権を確立した時期と考えられないか。

５．５　土器，その他

①マヤ人は翡翠を重要視したことも何となく，縄文人と相いつながる事例である。
②マヤの土器：円筒形の彩色土器が一般，不思議とロクロ不使用
インカの土器：典型的なのが「アリバラス」と呼ばれる壷で底は円錐形。ロクロ不使用で何となく究極の縄文土器を感じさせる。
③アステカ土器は芸術性が高く，絵付の代わりに表面に彫刻した「かめ壷」も発掘されている。

６．終わりに
①６０００年前の縄文人の渡米ルートは 黒潮北太平洋，ポリネシアの南太平洋，又は両方のコースかは不明であるが確実に到達していると信じられる。

②縄文人は環太平洋に広がり，中南米まで到達したと考えられる。当然１万５千年前，南米にはにベーリング海経由の移住があり，一方６０００年前の別ルートの縄文人と再会したと思われる。何ともロマンの塊である。

③南米の古代文明アステカ，マヤ，インカを築いた主力はベーリング経由のモンゴロイド人ではあるが，これらの文化には縄文人の血が流れている考えます。

（参考）環太平洋の縄文人　　09.06.29 栗田盛一